H26年度　現代システム科学域のFD活動

＜現代システム科学域全般＞

１．学域共通の必修３科目を対象に以下の活動を実施した.

・対象科目：情報とサステイナビリティ，環境とサステイナビリティ，マネジメントとサステイナビリティ

・内容：

　・ピア授業参観の実施

　・講義資料の学類内での共有

　・上記に基づいた次年度講義内容の検討

２．大学・大学院のFDセミナーなどへの積極的参加

＜知識情報システム学類＞

１．「知識情報システム学実習I/II」「知識情報システム学演習I」の演習内容を教育目標の下で検証し，今後のカリキュラム改善について検討した.

＜参考＞ピア授業参観の実績

　・被参観授業科目数　８

　・被参観授業者数　15（11）

　・参観者延べ人数（実人数）15（12）

＜環境システム学類＞

１．学類内ＦＤセミナー

・学類会議後に「セミナー」を実施：学類教員が相互に研究成果を共有し、研究・教育の資質の向上をはかる。平成 25 年度より以下のとおり実施

第１回		森岡　正博	社会	1	
第２回	H25.10.3	下村　泰彦	環境	1	環境心理と植栽デザイン
		牧岡　省吾	人間	1	共感覚の自己組織化モデル
第３回	H25.11.14	上柿　崇英	社会	2	環境哲学とサステイナビリティ
		竹中　規訓	環境	2	環境化学の学問体系の確立に向けて
第４回	H25.12.5	橋本　朋広	人間	2	祭りから見る救済体験の構造
		住友　陽文	社会	3	近代の新たなステージとしての 20 世紀
第５回	H26.2.6	福永　真弓	環境	3	人と生物のモノグラフから社会をみるために
		飛田　国人	人間	3	ヒトと温熱環境

第６回	H26.5.1	西尾　純二	社会	4	多様性の社会言語学
		中山　祐一郎	環境	4	山を登る雑草
第７回	H26.7.3	総田　純次	人間	4	ハイデガーに見る「物との関わり」
		秋庭　裕	社会	5	SGI-USA の 50 年 ーアメリカ合衆国における創価学会インターナショナルー
第８回	H26.8.7	福田　珠己	環境	5	「自然」を脱自然化する （←博物館で再現された「自然」～ジオラマ～）
		野津　亮	人間	5	知的エージェントにおける「人間っぽさ」とは
第９回	H26.10.2	星　英之	環境	6	シカ・イノシシ肉の解体処理・精肉販売の現状と問題点
		川部　哲也	人間	6	南極越冬隊員の心理学研究
第 10 回	H26.11.13	山東　功	社会	6	ブラジル日系移民社会と日本語
		細見　和之	社会	7	監獄と市民社会――死刑囚・永山則夫から考える
第 11 回	H26.12.4	宮脇　幸生	環境	7	品種多様性と文化の歴史的形成
		井手　亘	人間	7	人事評価と公正さ：非正規従業員の評価満足について
第 12 回	H27.2.5	酒井　憲	社会	8	食べて飲む営みと場の「多機能性」からみた大阪論 21 世紀的新盛り場論
		黒田　桂菜	環境	8	海の恵みを活かした社会へ
第 13 回	H27.4.2	高橋　幸治	人間	8	心理療法の研究
		工藤　宏司	社会	9	「ひきこもり」社会問題化に関する議論

２．啓発書『環境システム科学―持続可能な現代社会の創造―』を発行し、全教員・学生へ配布した。

３．ピア参観的活動、および授業運営の相互共有

・環境システム学類授業は、文理融合型を目指し、複数教員の担当による運営が不可欠である。そのため、たんなるピア「参観」にとどまらず、複数教員が授業の運営に緊密なコミットメントと調整を実施している。以下は、その授業の一覧：

「環境システム学演習Ⅰ・Ⅱ」では、学生による報告会に全教員が参加し、学修成果の確認を行うと共に，今後のカリキュラム改善について検討した。

「環境システム学演習Ⅲ・Ⅳ」では、H26 年度より開講にそなえ、カリキュラムについて、課程内の全教員で内容の検討を行った

「社会調査実習Ⅰ・Ⅱ」「環境とサステイナビリティ」「環境共生科学入門Ⅰ・Ⅱ」「社会共生科学入門Ⅰ・Ⅱ」「地球環境学」「環境アセスメント学Ⅰ・Ⅱ」「環境再生学」「心理療法論」では、担当の複数の教員がカリキュラムについて緊密な連携のもと授業を運営している。

４．学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）、および授業支援システムの積極的利用の学生に対する呼びかけを継続的に実施

５．カリキュラムの検討（卒業論文の提出要領の検討・卒業要件の再検討等→来年度へ継続）

＜マネジメント学類＞

1.　学部内・学類内ＦＤセミナー

・経済学部「成績評価ガイドライン」の見直しとマネジメント学類「成績評価ガイドライン」の新設（現代システム科学域として統一）

・学生の視点に立ちシラバスを活用する方策等に関する授業運営課題と教育改善事例の共有

2.　ピア授業参観の積極的推進

3.　授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメント

4.　ガイドライン「卒業論文の作成について」の修正

5.　年間の GPC 統計に基づいての、成績評価に関する検討

6.　経済学部教育ＧＰ『販売現場に密着した問題発掘スタディーズ』に関する講演会（平成 26 年６月）の開催

・マネジメント学インターンシップ説明会として開催

・データコンペと勉強会（平成 26 年９月予定）及び生協チャレンジ・生協インターンシップ報告会と勉強会（平成 27 年１月予定）は中止

7.　カリキュラムの再検討（マネジメント学類のみ）

8.　次年度カリキュラムに沿った FD 活動の検討（マネジメント学類のみ）

H27年度　現代システム科学域・知識情報システム学類のFD活動

＜現代システム科学域＞

１．昨年度同様，学域共通の必修3 科目を対象に以下の活動を実施する.

・対象科目：情報とサスティナビリティ，環境とサスティナビリティ，マネジメントとサスティナビリティ

内容：

・ピア授業参観の実施

・講義資料の学類内での共有

・上記に基づいた次年度講義内容の検討

＜知識情報システム学類＞

１．「知識情報システム学実習I/II」「知識情報システム学演習I/II」の演習内容を教育目標の下で検証し，今後のカリキュラム改善について検討する.

２．卒業研究の実施方法に関する検討

３．カリキュラムの再検討

＜環境システム学類＞

１．大阪府立大学・大学院ＦＤセミナーへの積極的参加

２．学類内ＦＤセミナーを継続

３．ピア参観的要素を含む、授業運営の共有化と資質向上のいっそう促進

４．学習・教育支援サイト（ポートフォリオ）、および授業支援システムの積極的利用の学生に対する呼びかけを継続

５．カリキュラムの再検討（卒業論文の提出要領の検討・卒業要件の再検討等）

６．入試問題の再検討（出題の傾向性について継続的検討実施）

＜マネジメント学類＞

１．大阪府立大学ＦＤセミナーへの積極的参加

２．学類内ＦＤセミナー

・マネジメント学類の成績評価ガイドラインの確認と説明

・授業運営課題と教育改善事例の共有

３．ピア授業参観の積極的推進

４．授業評価アンケートへの積極的参加の学生に対する呼びかけ、並びに各教員によるアンケートの分析とコメント

５．卒業論文のあり方についての検討

６．年間の GPC 統計に基づいての、成績評価に関する検討
７．カリキュラムの再検討
８．次年度カリキュラムに沿った FD 活動の検討